

令和五年度

第五十二回 さくらんぼの都市さがえ全国俳句大会

第四十三回 さくらんぼの都市さがえ

全国小・中学生俳句大会

# 入選句集

主催 さくらんぼの都市さがえ全国俳句大会実行委員会

共催 寒河江市・寒河江市教育委員会

寒河江四季のまつり実行委員会



第五十二回 さくらんぼの都市まちさがえ全国俳句大会

第四十三回 さくらんぼの都市まちさがえ全国小・中学生俳句大会

# 入選句集

選者

加武武國松井  
藤田田井田上  
詩菜多弘弘  
仁子美成三美  
先生先生先生先生先生

## 第五十二回大会について

実行委員長 松田弘三

昨年は五十一回大会という事で新たなスタートの年でありましたが、新型コロナウイルス感染症対策最中の大会でありました。現在のご承知のとおり、その感染症対策が5類に移行されマスク着用などの規制が緩和されたようです。しかし、まだまだ注意を怠ることは出来ません。

そのような現状下で我がさくらんぼの街では主力品種の佐藤錦や紅秀峰などの収穫も終盤となりつつあります。

ところでこの大会も文字通り全国からの応募数が四千句以上となり、応募の無かった県は二県のみだったと事務局から報告を聞いております。まさしく全国大会となってきたわけですね。

ご応募頂いた方々に感謝申し上げます。

さて、今回ご指導いただく中央選者の井上先生は、「NHK俳句」の選者や数々の俳句に関する著書を多数出版されておられます。ご指導をいただくテーマはご案内のとおり実践的な「俳句上達のコツ」であります。

また、佐藤洋樹市長からはご多忙のところ昨年に引き続き、快く市長賞の選を引き受けていただきました。

今後この大会が益々充実した大会となるよう、全国の俳句愛好者に呼び掛けてまいります。

寒河江市長賞

特選

雨音を映して春の障子かな

青森県鶴田町

竹浪誠也

秀逸

生涯をこの都市でよしさくらんぼ

群馬県藤岡市

木下薫

さくらんぼつまみし指の若返り

熊本県八代市

山下君子

寒河江四季のまつり実行委員会長賞

特選

慈恩寺の晚鐘幽か涅槃西風

河北町

後藤貞義

秀逸

月山の白きキャンバス春の虹

寒河江市

阿部栄子

小さき手を大きく振って入学す

栃木県宇都宮市

斎藤光

井上弘美賞

特選

ふるさとの光り届きしさくらんぼ

香川県宇多津町

岩本

稔

秀逸

烏曇ホチキス止めの作品集

山形市

伊藤 藤ふみ

偶数といふ束縛やさくらんぼ

東京都大田区

高橋 寅次

鷹柱 天界に城ある如く

山口県周南市

藤井 香子

特選選評

井上弘美

特選 ふるさとの光り届きしさくらんぼ

岩本 稔

故郷から届いたのは「さくらんぼ」だが、「光り」が届いたと表現することで故郷への賛歌になった。「さくらんぼ」は故郷の光と水と大地が育てたものだが、とりわけ「さくらんぼ」の跳ね返す光は幸福感に満ちている。「光」「届」だけを漢字にした効果で、「光が届く」という詩的な表現が、印象鮮明に読者の心に届くのである。

秀逸 烏曇ホチキス止めの作品集

伊藤 藤ふみ

「ホチキス止め」だから、手作りの「作品集」。鳥たちが北へ帰ってゆく早春に、ささやかな「作品集」も、旅立ってゆくのだ。

秀逸 偶数といふ束縛やさくらんぼ

高橋 寅次

意表を突く鮮やかな発想で群を抜いていた。「束縛」という観念的な言葉が、逆に「さくらんぼ」の可憐さを際立たせたのが面白い。

秀逸 鷹柱 天界に城ある如く

藤井 香子

「鷹柱」だからこの作品で、「天界」の「城」というスケールの大きい空想が生きた。「鷹」の繰り広げるドラマが見えるようだ。

近況

月を待つなり一対の花篝

松田弘三選

特選

若葉風はばたくやうにカヌー漕ぐ

寒河江市

大熊

葉

秀逸

粉黛の稚児を乗せたる山車囃子

千葉県千葉市

松田なごみ

馬の目の青く濡れたる春の月

群馬県藤岡市

原清香

校庭の実桜を蹴り逆上がり

愛知県東浦町

伊藤京子

特選選評

松田弘三

若葉風はばたくやうにカヌー漕ぐ

大熊葉

月山湖の囁目吟と思われる。

月山湖は山形自動車道脇の寒河江ダム湖のことである。全国高校総体などのカヌー競技大会の会場や練習場として知られている。地元などの高校が全国トップクラスの成績を上げている。

句意は明瞭である。呼吸を合わせてひたすらオールを漕ぐ若者たちの躍動する動作があたかも鳥が羽ばたいているようだという。

湖面をよぎる若葉風が呼応し、生气に満ちた若々しさを暗示して心地よい。

近詠

揺曳と喜色の春の最上川

佳作

往診の白衣そのまま花衣

山形市 安部 拙郎

慈恩寺の晩鐘幽か涅槃西風

河北町 後藤 貞義

二才児のツイントールやさくらんぼ

群馬県高崎市 遠藤 幸子

掌をくばませ待つ児さくらんぼ

東京都世田谷区 石川 昇

開く手へ赤子這ひ来る花むしろ

群馬県伊勢崎市 川野 忠夫

尼二人立ち止まりたる燕子花

新潟県長岡市 福島 隆男

ゆるる実の軸ありてこそさくらんぼ

白鷹町 小林 香代子

方丈へ挽ぎしばかりのさくらんぼ

白鷹町 山口 恵子

言の葉はやさしき飛礫さくらんぼ

愛知県岡崎市 中根 由起子

六才のかたたたきけんさくらんぼ

愛媛県八幡浜市 河野 ちず

入選

幼な児と喃語なんごの会話さくらんぼ

山口県周南市 熊本 芳郎

春の窯貫乳かんにゅうの音も茶事の客

静岡県森町 吉筋 恵治

月山を手繰り寄せ摘むさくらんぼ

山形市 庄司 芳彦

魚屋の猫の店長街薄暑

酒田市 菊地 秀雄

赤組のポンポンダンスさくらんぼ

徳島県阿南市 澤田 典子

ピアニカにドレミのシールさくらんぼ

長野県小諸市 加藤 陽介

月の山涼しき瑠璃を佩きにけり

東京都文京区 市村 和湖

さくらんぼ夜空に赤きアンタレス

愛知県岡崎市 杉山 茂

肩車のツイントールやさくらんぼ

三重県大台町 瀬川 令子

班長が歩幅合わせる一年生

寒河江市 阿部 栄子

國井多成選

特選

達者かと一筆母のさくらんぼ

東京都江戸川区

羽住博之

秀逸

通学のシャツに若さの光る夏

千葉県松戸市

堀卓

生涯をこの都市でよしさくらんぼ

群馬県藤岡市

木下薫

母となる妻は美しさくらんぼ

長野県長野市

吉沢道夫

特選選評

國井多成

達者かと一筆母のさくらんぼ

羽住博之

遠方に住む子どもへ一筆書いたのである。達者か、で母子の情愛が伝わってくる。ぶつきら棒にも聞こえなくもないが、これが親子というものである。

私の母は他界して二十四年になる。わが家の台所の扉の裏に、生前の母自筆の漬物を漬けるための分量が記されていた。決して上手な文字ではなかったが、懐かしい母の匂いがしていた。

すでに母から手紙やはがきをもらうことも、今となつては叶わぬ身だが、御母堂がご健在の間は、たつぷりと親孝行に心掛けていただきたいものである。

近詠

麦笛や警鐘止まぬウクライナ



佳作

さくらんぼ指輪に添えてプロポーズ

香川県宇多津町 中山喜博

叱られて佛に戻すさくらんぼ

山口県田布施町 曾我欣行

さくらんぼ送ると母の丸き文字

東京都江戸川区 羽住博之

小さき手を大きく振って入学す

栃木県宇都宮市 斎藤光

この道のほか振り向かずさくらんぼ

河北町 後藤松溪

魚屋の猫の店長街薄暑

酒田市 菊地秀雄

母の日よ妣の好みの花器に活く

白鷹町 山口恵子

さくらんぼつまみし指の若返り

熊本県八代市 山下君子

豆飯や野良着の母の立つ籠

千葉県柏市 田辺ゆかり

早やばやと頼むと便りさくらんぼ

寒河江市 阿部孝一

入選

さくらんぼほくにほどよい句読点

宮崎県宮崎市 荒尾洋一

さくらんぼ一年一組粒ぞろい

東京都町田市 野村信廣

死ぬほどの恋など御免桜桃忌

大阪府吹田市 橋本有子

さくらんぼ手をつないでもいいですか

長崎県長崎市 西史紀

父さんの無口は優しさくらんぼ

三重県伊勢市 藤田友木

戦など止めて寒河江へさくらんぼ

上市市 石井浩吉

二の段の九九諳んじてさくらんぼ

滋賀県大津市 近江堇花

陽の匂ひあふるる里やさくらんぼ

三重県大台町 瀬川令子

さくらんぼ仲良き事の美しきかな

熊本県熊本市 久光有子

校庭の実桜を蹴り逆上がり

愛知県東浦町 伊藤京子

武田菜美選

特選

透析やさくらんぼの赤嫉妬する

北海道札幌市

鎌田

誠

秀逸

さくらんぼ傷つきやすい自尊心

茨城県土浦市

貝塚

誠

死ぬほどの恋など御免桜桃忌

大阪府吹田市

橋本

有子

雨音を映して春の障子かな

青森県鶴田町

竹浪

誠也

特選選評

武田菜美

透析やさくらんぼの赤嫉妬する

鎌田 誠

詠み出しの「透析」にぎくりとしましたが、この言葉に纏いつく暗さと湿つぽさを撥ね返す力が次の「さくらんぼ」にあります。この二つの言葉の間のギャップが作品を支えています。腎透析は長時間の拘束が苦痛と聞いています。この間体内の有毒物質を除くために機械へと出てゆく血の色に目が向いたのでしよう。時恰もさくらんぼの最盛期。あの美しさと比べれば私の血の色はと沈みがちな心を「嫉妬しています」と言い切つて撥ね返しています。しかし「さくらんぼの赤」の中八の澱みには、失った若さや健康を惜しむ心が読み取ることができます。人の心の強さと弱さを十七音に圧縮した力量が見事です。

近詠

触れ合へば弾ける湯玉猫の恋

佳作

誕生日さくらんぼまた熟<sup>う</sup>れてゆく

静岡県藤枝市 村田 久美子

引越しは明日桜桃の種を吹く

大阪府和泉市 押見 げばげば

朝桜弓手の白き女学生

山形市 鈴木 周子

小さき手を大きく振って入学す

栃木県宇都宮市 斎藤 光

正座して応援するや草相撲

神奈川県横浜市 猪狩 鳳保

朝日子のはしやぎも箆にさくらんぼ

河北町 真木 純子

月山の白きキャンパス春の虹

寒河江市 阿部 栄子

校庭の実桜を蹴り逆上がり

愛知県東浦町 伊藤 京子

鷹柱天界に城ある如く

山口県周南市 藤井 香子

六才のかたたたきけんさくらんぼ

愛媛県八幡浜市 河野 ちず

入選

雪だるまの顔整へて越しゆけり

京都府京都市 岸野 由夏里

恥じらいは昔話よさくらんぼ

神奈川県厚木市 北村 純一

往診の白衣そのまま花衣

山形市 安部 拙郎

さくらんぼ手をつないでもいいですか

長崎県長崎市 西 史紀

クリスマス天使の寝息星になる

北海道札幌市 佐藤 信太

弁当に祖母の梅干大試験

神奈川県相模原市板倉 孝敬

はるばると傘寿の褒美さくらんぼ

福岡県福岡市 鋤柄 治子

教え子の両手の手話のさくらんぼ

埼玉県坂戸市 山本 純人

青春と問はれ例えば花桜桃

山形市 遠藤 祥

さくらんぼつまみし指の若返り

熊本県八代市 山下 君子

## 小学生の部

奨励賞 寒河江市立南部小学校

## 武田詩子選

### 特選

がっさんはおおきなおおきなかきごおり

寒河江小 一年 えのもと れん

うんどうかい風といっしょにゴールする

南部小 三年 深瀬 悠

夏の空打たれてしまったホームラン

南部小 五年 阿部 広夢

## 特選選評 — 武田詩子

がっさんはおおきなおおきなかきごおり

えのもと れん

素晴らしい発見です。参りました。

毎日何気なく見ている月山をれんさんは「大きなかき水」に見えたのですね。

いろいろなことを素直な眼でみて、また驚かせてください。

うんどうかい風といっしょにゴールする

深瀬 悠

運動会で悠さんは一生懸命走ってゴールに飛び込んだのですね。

「風と一緒に」に、嬉しい気持ちが進められてすばらしい句になりました。

夏の空打たれてしまったホームラン

阿部 広夢

ホームランを打たれた広夢さんの悔しい気持ちが省略されています。

野球の句はいっぱいありましたが言葉の使い方がダントツです。

近詠 街の子も農の子も初田植えかな

秀逸

入選

ゆきとけてみんなとあえたらろくじぞう

高松小 一年 大沼 勇 翔

ゆうえんちなにからのろうこどものひ

寒河江中部小 一年 うしだきつぺい

早起きのアラム代わりのせみの声

寒河江中部小 六年 加藤 弦 大

夏祭り光の花が空に舞う

南部小 六年 菊池 楓

佳作

ドッキドキぐらぐらまえばとにゆうがくしき

寒河江中部小 一年 うの かりん

かぶとむしパパとひみつのよるのやま

西根小 一年 清野 晃

おじいちゃん五月五日のたん生日

柴橋小 五年 水多 香 乃

花びらと風とわたしとおにごっこ

寒河江小 六年 庄司 侑 里

泳ぐかげ音符のような蝌蚪の群れ

寒河江小 六年 鈴木 木 ももか

学校の葉ざくらまどべにきらきらと

高松小 四年 工藤 日和

授業中ずっと見てたい春の空

高松小 六年 大沼 凜太郎

わたくしが桜の精になったよう

高松小 六年 横山 愛

じおんじのほとけまもるちござくら

醍醐小 四年 たかはし すぐる

寒河江川あゆとつな引きさお曲がる

醍醐小 四年 佐藤 叶 成

青いそりびゅうびゅうほくも風になる

南部小 三年 畠山 萩 吾

かえるの子ことしもあえたねこんには

南部小 三年 伊藤 步

せんぷう機早く出してとよんでいる

南部小 四年 武田 朝 陽

西空にとけこんでいく赤とんぼ

南部小 四年 高野 莉 恋

やきいもやポーっと私をさそってる

南部小 四年 木村 絢 泉

スイカわり耳をすませば友の声

南部小 五年 飯澤 和心

プール開きまだまだ小さい水しぶき

南部小 五年 武田 栞渚

入学式学校中がむかえてる

南部小 五年 高野 悠愛

秋のもみじかぜにふかれて小鳥になる

南部小 五年 阿部 龍華

新しい小鳥が歌う春の空

南部小 五年 大沼 瑞希

水あそび心のもやもやふきとばす

南部小 六年 武田 桜輝

かき氷客喜ばす天こもり

南部小 六年 大場 麗我

夏の空自由な雲に声届け

南部小 六年 井上 鳳仁

初日の出迎えに来たよほくたちを

南部小 六年 志田 琉真

桜桃の色を気にして登下校

柴橋小 三年 竹中 聖琉

ぼくの家7ひきおよぐこいのぼり

柴橋小 四年 佐藤 祐真

さくらんぼ広元公も恵比寿顔

柴橋小 五年 齋藤 麻矢

おひさまがあいずしてるよつくしんぼ

三泉小 三年 井上 桜

春風が外であそべとほくをよぶ

三泉小 三年 佐藤 悠成

風光るぼくのゆめのせホームラン

三泉小 五年 日下部 駿

かわせみが羽をひらいた空の色

三泉小 六年 西尾 嶺

お母さん五月五日はリースデー

寒河江小 五年 田中 理空斗

上げ花びまどべにわたしのかげえおき

寒河江小 五年 縄野 七海

八重桜風の強さに身もだえす

寒河江小 五年 青山 瑛士

衣がえわたしだけのファッションショー

寒河江小 五年 後藤 芽依

ウクライナ平和な春をとりもどそう

寒河江小 五年 安孫子 叶和

サッカーの試合勝てそう春の風

寒河江小 五年 高橋 昂平

一年生正しくえんぴつにぎりましよう

寒河江小 五年 武田 慧

さばくからながいたびしてこうさ降る

寒河江小 六年 小川 悠粋

ランドセル未来つめこむ一年生

寒河江小 六年 渡辺 煌介

さくらんぼぼくのおてでころころりん

西根小 一年 すぎき とうや

さくらんぼ大きくあまい二刀りゆう

西根小 三年 柏倉 心美

花は葉に二両電車の終着駅

西根小 五年 小野 真珠

ネモフィラをなでる夕風春駆けて

西根小 五年 渡邊 大起

0と1つなげてみればさくらんぼ

寒河江中部小二年 さとう しき

ごひやくえんよりも大きなさくらんぼ

寒河江中部小二年 きくち えいた

おとうとがうまれてふえたこいのぼり

寒河江中部小三年 中野 詩紋

こいのぼり世界を一周泳ぐ夢

寒河江中部小四年 木下 朝陽

春の空はじめて打ったホームラン

寒河江中部小四年 正野 晃都

じゅくの上つばめのふうふ子育て中

寒河江中部小五年 大江 優衣瑠

春風がぼうしを誘っておにごっこ

寒河江中部小六年 松田 遥

いつ見てもよちよち歩きかぶと虫

寒河江中部小六年 天野 翔晴

さくらんぼはおばるぼくはくいしんぼう

白岩小 三年 真木 康

さくらんぼジュースの中のバレリーナ

福岡県福岡雙葉小二年 佐藤 絢音

えんそくでせんせいみんな同じふく

東京都南篠崎小三年 谷口 煌斗

## 中学生の部

奨励賞 寒河江市立陵東中学校

加藤 仁選

特選

秋鮭の旅の終点寒河江川

陵東中 一年 渡辺 權莉

まだ堅き教科書の側桜咲く

陵東中 二年 安藤 愛音

体育館初夏の風とおるシャトルラン

陵南中 一年 小林 陸

特選選評 ———— 加藤 仁

秋鮭の旅の終点寒河江川

渡辺 權莉

寒河江川は、水がきれいなので鮎と秋鮭の宝庫。陵東中に通う權莉さんは三泉の方といます。鮎釣りや秋鮭の海から上がってくるのを見られる環境にあります。

鮭は旅をするわけではありませんが新しい命を残すために生まれた寒河江川に邂逅するのです。それを旅と表現されたのが良いと感じます。後ろには月山が薄白くなっているのも見えてきます。良く見、良く感じた、良い俳句です。

まだ堅き教科書の側桜咲く

安藤 愛音

桜の頃は新学期に入ったばかりです。「まだ堅き」にひかれました。そのころは教科書の表紙ばかりでなく、これからどんな授業、どんな部活に入ろうかと、自身の心も緊張している様子が見えてくる表現になっています。桜咲く、柔らかさと「まだ堅き」がびったりとして担任の先生の喜びそうな俳句です。

体育館初夏の風とおるシャトルラン

小林 陸

シャトルランとは、スポーツをしている方には常識のようです。リズムに合わせて持久力を測定する種目だそうです。シャトルランのシャトルにはいろいろな意味も付くようです。シャトルランのしやれた言葉がどのようにして生まれたのかは定かではありませんが、陸さんは「シャトルラン」の言葉を捉え作品にされました。それが俳句です。ついでに多感な青春時代アメリカのスペースシャトルにも興味を持ち宇宙への夢の一句などどうでしょう。

近詠 さくらんぼの選り小屋に寝る猫の「トラ」



秀逸

雪溶けの地面うるおし命産む

陵東中 三年 茂木和佳

見栄を張り夕日のようなさくらんぼ

岐阜県川辺中二年 日下部巧実

絶佳した慈恩寺の山の初紅葉

陵西中 一年 大泉達基

さくらんぼ神様の味交じってる

陵南中 三年 山田朋希

佳作

入学式後ろで見守る長岡山

陵東中 一年 安孫子弘武

夏の空雲を切り裂く三壘打

陵西中 三年 大谷美翔

旅帰り故郷の空や風青し

陵南中 三年 榎穂香

五月雨開いたかさの交差点

大阪府関西大倉中一年 中西沙那

桜咲きこれからはじまる物語

大阪府関西大倉中一年 上坂結香

入選

まだなれず硬い制服桜の門

陵東中 一年 山田結菜

この春に児童の名から生徒へと

陵東中 一年 佐藤克哉

入学し心も景色も桜色

陵東中 一年 武田心

雪解けで新たな命顔を出す

陵東中 二年 大沼希瑠

初初しい新入生のセーラー服

陵東中 二年 阿部絆愛

こいのぼりどこまでも飛べ夢のせて

陵東中 二年 石山芽依

憧れの先輩の背に桜舞う

陵東中 二年 千葉優芽

リフレッシュ部活終わりに飲む麦茶

陵東中 三年 阿部悠人

早春や恩師エールし転勤す

陵東中 三年 仁藤ななみ

全員でつないだタスキ花吹雪

陵東中 三年 大石彩生

宿題の残りに気づく朧月

陵東中三年 渡邊響星

胸躍る揺れる風景 入学日

陵東中三年 今野裕貴

風鈴の音色にあわせバットふる

陵東中三年 後藤樹璃

笑い合い夏服しぼる朝の雨

陵東中三年 菊地桃愛

さくらんぼクリームソーダにトッピング

岐阜県川辺中三年 宮脇紗希

ふたまたにわかれてちよんちよるさくらんぼ

岐阜県川辺中三年 橋本志侑

薫風と共に下校す午後六時

陵西中一年 布川陽菜

悔い残さず自分をこえる運動会

陵西中一年 渡邊克己

田水張り輝く水面見て進む

陵西中一年 大沼龍士

立秋の川瀬にまじる風の音ねよ

陵西中二年 高橋心花

寂しげな景色の中の秋の声

陵西中二年 佐藤みらい

空ながめ風とたわむる桜の舞

陵西中二年 真木優花

新緑が陽光通し翡翠色

陵西中三年 武田華凜

清明に気持ち切り換え教室へ

陵西中三年 大沼悠翔

父嘆く「また雪かきか」しんしんと

陵西中三年 高橋岳玖

除夜の鐘響き渡るや日本中

陵西中三年 真木星來

手作りの風鈴の音は美しい

陵南中一年 荒木董

黒い空白い雷鳴りひびく

陵南中一年 佐藤好華

うぐいすの鳴き声響く月山道

陵南中一年 安孫子佑輝

愛犬よかき氷食べ人間か？

陵南中一年 阿部陽菜

制服にひらりとついた桜かな

陵南中 一年 今野 博雅

せいふく着桜と一緒に「はいポーズ」

陵南中 一年 土田 悠生

日ざしあび夏の足音きこえるよ

陵南中 一年 芦野 大翔

風ふいてひめおどりこ草ダンス中

陵南中 一年 田井 彩羽

入学式心機一転頑張ろう

陵南中 一年 安孫子 圭

中庭に暑さしのいでさくニガナ

陵南中 一年 佐藤 彩音

太陽の光から成るさくらんぼ

陵南中 二年 阿部 弘夢

桜もち家族5人の真ん中に

陵南中 二年 伊澤 百華

汗だくの熱気が密集体育館

陵南中 二年 二関 琴美

今年からはじめたスノーボードよく転ぶ

陵南中 二年 鈴木 琉之進

久々に曾祖母と話す盆の夜

陵南中 二年 会田 昊生

真っ白で晴天の中初スキー

陵南中 二年 阿部 逢花

思い出と反省刻み年を越す

陵南中 二年 熊澤 大志

永き日に影がのびたる帰り道

陵南中 三年 工藤 隼汰

四時半の奇声で起きる清和なり

陵南中 三年 渡邊 海翔

風鈴や君の瞳に映る青

陵南中 三年 川越 葉月

おはようともぎ取り食べるさくらんぼ

陵南中 三年 沖津 杏乃

さくらんぼ二つほおばるお兄ちゃん

福岡県春日中一年 石坂 蒼空

さくらんぼ私はいつも一人きり

大阪府関西大倉中一年 濱田 葵

はだざむい起きるのだるい月曜日

大阪府関西大倉中一年 齋藤 汐音

高校生の部

武田菜美選

特選

太宰忌の電車力んで止まりけり

群馬日本航空高校三年 日下部 友奏

秀逸

病院の手すり冷たき風信子

愛知県名古屋高校二年 鈴 木 哲 平

青春や桜桃の種噛みあてて

山形東高校 三年 木 村 幸 人

特選選評

武田菜美

太宰忌の電車力んで止まりけり

日下部 友奏

明治も末の四十二年六月十九日、青森の大地主の家に生まれた太宰治は、左翼運動に参加するも転向、文筆活動に入り活躍しました。一方では藥物中毒、自殺未遂を繰り返した果てに、昭和二十三年六月十三日に玉川上水に入水し人生に終止符を打ちました。日下部さんは太宰の背負った時代性、地縁血縁を重い鉄の塊の電車に例えています。そして桜桃忌の今日は常よりもレールを軋ませて停車しようだと詠んでいます。鉄路に触れる鉄の車輪の音は出自に抗いきれずに命を絶ち切った太宰の苦悩の叫びであり、彼の才能を惜しむ後世の叫びとも聞こえます。『電車力んで止まりけり』に生き急いだ太宰を引き止めることのできなかった悔いが滲んでいるようです。

近詠

セーターに穴思讐のこぼれ落つ

佳作

あの頃の無邪気へ誘う猫じゃらし

山形南高校 三年 美濃谷 晃輝

きれいごとばかり言ふ癖ヒヤシンス

愛媛県済美平成中等教育学校 四年 瀬野 竜旺

傘の柄を持つ手重なる春驟雨

東京都共立女子高校 三年 川嶋里 佳

入選

花ふぶき想いを乗せて詩うたう

谷地高校 二年 鈴木 奏音

背伸びして小さい手には桜ん坊

谷地高校 二年 押野 美咲

桜桃はちらちら燃える柘榴石

谷地高校 二年 東海林 彩華

さくらんぼルビを振るならるびいかな

東京都明治大学付属中野高校 三年 内山 晴登

虎が雨傘擦り合って人進む

山形南高校 二年 高山 聖音

草餅やパグの寝返り柔かに

愛知県名古屋高校 二年 小田 健太

ウインナーの破裂の音や春の風邪

愛知県名古屋高校 三年 幸村 遥都

ここよりは名の違ふ河朝燕

愛知県名古屋高校 二年 服部 亮汰

蝉の声はかなき生で何願う

福岡県東筑高校 一年 喜田 絢香

さくらんぼ叶えたい夢口ずさむ

埼玉県特別支援学校坂戸ろう学園 三年 佐藤 絵梨花

椋鳥の嘴染めし桜の実

福岡県東筑高校 二年 飛野 佳音

ただ恋をしたいだけなのさくらんぼ

福島県磐城高校 三年 関根 杏華

# 選者略歴

## 井上弘美 先生

昭和28 京都府生まれ  
 昭和59 関戸靖子に師事  
 昭和63 「泉」入会 綾部仁喜に師事  
 平成16 早稲田大学院修士課程にお  
 いて近世俳文学を研究  
 平成24 「汀」創刊主宰  
 現在

「汀」主宰 「泉」同人（公）俳人  
 協会評議員 朝日新聞京都俳壇選者  
 武蔵野大学・早稲田大学エクステ  
 ションセンター講師「NHK俳句」  
 選者（2019・2020年）など  
 句集に「あをぞら」（第26回俳人協  
 会新人賞）、「汀」「夜須礼（やすら  
 い）」（第10回星野立子賞・第14回小  
 野市詩歌文学賞）他

著書に「俳句上達9つのコツ」「顔  
 見世 俳句日記2013」「季語にな  
 った京都千年の歳時」「読む力」（第  
 35回俳人協会評論賞）「俳句劇的添  
 削術」他多数

## 松田弘三 先生

寒河江市生まれ  
 俳誌「森の座」無鑑査同人  
 俳誌「青瓢」主幹・選者  
 公益社団法人俳人協会々員  
 山形県俳人協会々員

## 國井多成 先生

寒河江市生まれ  
 「さくらんぼ俳句会」事務長

## 武田菜美 先生

俳誌「銀化」同人  
 「山寺俳句塾」「森の会」「遠嶺句会」代表  
 「赤とんぼ」俳句会々員  
 公益社団法人俳人協会々員  
 山形県俳人協会常任幹事  
 学校法人NHK学園俳句部門講師  
 句集「梨の芯」

## 武田詩子 先生

俳誌「森の座」同人  
 俳誌「青瓢」同人  
 「詩音俳句会」代表  
 公益社団法人俳人協会々員  
 山形県俳人協会々員

## 加藤 仁 先生

俳誌「森の座」無鑑査同人  
 公益社団法人俳人協会々員  
 俳誌「青瓢」運営委員・編集長  
 山形県俳人協会々員

第五十二回さくらんぼの都市さがえ

全国俳句大会

第四十三回さくらんぼの都市さがえ

全国小・中学生俳句大会

千九九一—〇〇二一

山形県寒河江市中央一丁目七番十四号

寒河江市立図書館内

さくらんぼの都市さがえ

全国俳句大会実行委員会事務局

TEL (〇三三七) 八六一一六六二